

博物学研究 その7

—海泡石（かいほうせき）のパイプ—

Natural History Research No. 7

—Meerschaum Pipe—

川瀬 基弘*

* 愛知みずほ大学

KAWASE Motohiro*

* Aichi Mizuho College

要旨

粘土鉱物の一種である海泡石（セピオライト）を加工したメシャムパイプは、パイプの女王とも呼ばれ、トルコ共和国を代表する工芸品であり、上級品質のものは高級パイプとして親しまれている。博物学資料としてメシャムパイプを写真で紹介するとともに、原材料の海泡石について簡単にまとめた。

キーワード: 海泡石; セピオライト; メシャムパイプ; 粘土鉱物

Key Word: Kai-hō-seki; sepiolite; Meerschaum pipe; clay mineral

I. はじめに

海泡石（かいほうせき）とは、トルコ共和国（Türkiye Cumhuriyeti）を代表する粘土鉱物の一種であり、セピオライト（sepiolite）とも呼ばれる。歴史的には、有史以前より、死者の目の覆いに使用されたり、石鹸のように洗濯に使われたり、日干し煉瓦として住居を提供したり、比較的生活に密着していた鉱物である¹⁾。今日でも、軽量化や断熱性を目的に建材に使用されたり、不純物を除去する目的で煙草のフィルターや自動車の排ガス処理に使用されたり、防臭目的でペットの床敷に使用されたり、ワックスの固化など増粘剤として使用されたりしている²⁾。特に、海泡石（セピオライト）を加工したメシャムパイプは、パイプの女王とも呼ばれ、トルコ共和国を代表する工芸品であり、上級品質のものは高級パイプとして親しまれている。本報では、博物学資料としてメシャムパイプを写真で紹介するとともに、原材料の海泡石について簡単にまとめた。

II. 粘土鉱物とは

粘土を構成する鉱物のことで、含水珩酸塩鉱物である。層状結晶構造をもつものが大部分である。カオリン鉱物、蛇紋石鉱物、パイロフィライト、滑石、スメクタイトグループ、パーミキュライト、雲母、脆雲母、緑泥石族、レクトライト、セリサイト、コレンサイト、セピオライト、パリゴルスキー石などがある³⁾。医薬品や化粧品の成分としても使用されており、用途の多様性が大きいことで様々な分野から注目を集める鉱物である。トルコのエスキシェヒル（Eskisehir）地域のセピオライトは、新第三紀の砂質～粘土質堆積物中に柔らかく緻密なサクランボ～拳大の塊として存在する⁴⁾。

III. セピオ石（セピオライト）の特徴

化学式 $\text{Mg}_4\text{Si}_6\text{O}_{15}(\text{OH})_2 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ 、硬度 2～2.5、灰白色、斜方晶形、軽石とは異なるミクロン・オーダーの多孔質のため、外見は半艶の光沢があり、手触りはすべすべして、軽さに反して丈夫である^{5,6)}。トンネル構造を持つところはゼオライトに、水に分散して撓変性や可塑性を持つところはベントナイトに、水とぬって

乾燥固化し、焼成して焼き固まる点はカオリナイトに類似するなど3つの特性を有する²⁾。ハンマーで割ることはできない（ハンマーで叩くと潰れる）が、ナイフで切ることができ、耐火性が極めて大きいため、喫煙用パイプの材料として折り紙付きであり、パイプに適したものはトルコ共和国産に限るとされている⁶⁾。セピオライトの産状には次のようなものがある。①鹹度の高い、またはアルカリ性の湖底あるいは海底堆積物として産出、②ドロマイトやマールに随伴して産出、③蛇紋岩中に變質生成物として産出、④低温熱水溶液からの直接沈殿物として、あるいは熱水變質物として産出、⑤土壤中に産出⁴⁾。

IV. メシャムパイプ

メシャムパイプはブライヤーパイプよりも歴史が古い。トルコの実産地では既に絶産といわれるが⁶⁾、加工されたパイプは今でも市場に出回っている。人面など繊細な彫刻で製作年の古いものは、骨董的価値が大きい。また、使用を重ねることにより、煙草の成分が吸着され、白の原色から琥珀色または飴色へと変化していく。今回紹介する資料は未使用品のため、原色の状態であるが、専用の保管ケースもあわせてご覧頂きたい。

引用文献

- 1) 下坂康哉,和田猛郎.新素材セピオライトー近くて遠い粘土ー.地質ニュース, 385, 6-18(1986).
- 2) 柴田正三.中国およびトルコ粘土鉱物の調査研究(Ⅲ)-中国湖南省・永和郊外の海泡石-.名古屋造形芸術大学名古屋造形芸術短期大学紀要, 2, 55-58(1996).
- 3) 地学団体研究会.新版地学事典.平凡社,東京(1996).
- 4) 大塚良平.セピオライトの最近の諸問題.粘土科学,24(4), 137-145(1984).
- 5) 門坂忠雄,達家清明.海泡石とその他のセピオライト系鉱物の鑑別.関税中央分析所報, 23, 109-114(1983).
- 6) 堀 秀道.楽しい鉱物図鑑,草思社,東京(1997).



